

公立大学法人 大分県立看護科学大学
平成23事業年度の業務実績に関する評価結果

(全体評価)

(大項目評価)

平成24年8月

大分県地方独立行政法人評価委員会

1 全体評価

評価結果と判断理由

評価結果

全体として年度計画及び中期計画を順調に実施している。

判断理由

- 大項目のうち「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」の項目の評価及び「Ⅲ財務内容の改善に関する目標」については、S評価（特筆すべき進行状況にある）が妥当であると判断した。また、「Ⅱ業務運営の改善及び効率化に関する目標」、「Ⅳ教育、研究、社会貢献及び組織運営の状況に関する自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標」、「Ⅴその他業務運営に関する目標」の項目の評価については、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。
- 「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」の項目については、4年制の看護師教育の課題把握や改善、実習施設の開拓や指導者の育成の取組を進めた。また、NP（診療看護師）養成に関しても、必要単位数の見直しや実習方法の見直し等の実施や、就職したNP修了生をフォローアップする体制構築、教育内容へのフィードバックに取り組んだことなどから、S評価（特筆すべき進行状況にある）とした。
- 「Ⅲ財務内容の改善に関する目標」については、文部科学省・学術振興会科学研究費や環境省等の委託研究費等の外部資金を獲得するなど、計画以上の成果を達成した事項が見受けられたことなどから、S評価（特筆すべき進行状況にある）とした。
- 以上の大項目評価を考慮して全体評価の結果としては、「全体として年度計画及び中期計画を順調に実施している。」とした。

<委員会からのコメント>

- ・NPに関して全国の中では抜きんで踏み出しているのではないかと。保健師の大学院教育について全国の先行例を作っていくと大学姿勢は、看護師基礎教育4年間の充実も含めて価値がある印象を受けている。
- ・外部資金の獲得に大学一丸となって取り組んでいるように見受けられる。

【参考：大項目評価の結果】

I 教育研究等の 質の向上	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
II 業務運営の改 善及び効率化	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
III 財務内容の改 善	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
IV 自己点検・評 価並びに情報提 供	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
V その他業務運 営	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり

2 大項目評価

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	---------------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- 小項目評価の集計結果では、76項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
- 下記の「大項目評価に当たり勘案した事項」に示すように、アンケートにより新カリキュラムの評価確認と結果を受けた改正を実施したこと、NPの養成に必要な単位数や実習方法の見直し等を実施するとともに、NP修了生の活動をフォローアップする体制の構築に取り組んだこと、取得特許の企業への有料貸与や科学研究費を全対象教授が申請し研究資金を獲得するなど、計画以上の成果を達成した事項が見受けられた。
- 小項目評価の中にⅡ（十分に実施できていない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。
- 以上のことから大項目評価としては、S評価（特筆すべき進行状況にある）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

- ※特筆すべき項目
小項目評価がⅣ（上回って実施している）の項目は、次のとおりであった。
なお、【2】は公立大学法人が小項目の重要性等を考慮して行ったウエイト付けである。
(I-1-(1)ア(ア)a-1)a-2)
- 新カリキュラムの検証
・看護系全教員を対象にアンケートを実施し、新カリキュラムの評価を確認するとともに、アンケート結果を受けたカリキュラムの改正を実施した。
(I-1-(1)ア(イ)a-1)a-2) a-3) a-4) 【2】
- 実習教育の充実
・同時に異なるカリキュラムが進行できるよう、実習指導者会議などで早めの説明を実施した。
・新カリキュラムにおける新たな実習施設を開拓し、臨床指導者を対象に説明会を開催するとともに、新任実習担当教員を対象とし、3年以上経験教員とのフリーディスカッションを行った。
(I-1-(1)ア(イ)c-1)c-2)c-3)
- 卒業時の到達目標を見据えた取組
・改正カリキュラムの学生卒業時の到達度のレベルアップを図る評価基準の作成を進めた。
(I-1-(1)イ(ア)c-1)c-2)c-3) 【2】
- NPの養成を目指した教育プログラムの開発
・NP養成修了要件を43単位から50単位に増やし、小児NPコースで初めて実習を実施した。
・修了生の活動状況を把握するフォローアップ会議を毎月開催した。
・患者相談窓口などの設置を含む実習施設の安全管理体制の強化を図った。
(I-1-(1)イ(ア)f) 【2】
- 助産師・保健師養成の大学院化の取組
・保健師教育で基本理念を2つ掲げ、保健師に必要とされる7つの能力を明確にした。
・助産学教育で助産師に必要な6つの能力を明確にした。
(I-1-(2)アa)b)

○教員の教育能力を高める取組

- ・ケアリングアイランド事業としてFD（大学教員教育能力開発）研修を実施した。
- ・研修に関するニーズや制度に関する調査を実施した。
- ・研修の募集や選考を自己評価委員会に集約する運用体制の見直しを実施した。

（I-1-(2)イa-1)a-2)【2】

○進級試験の導入

- ・不合格には至らない低得点学生の支援と進級試験不合格者への支援体制を確立した。

（I-1-(2)イc-1)c-2)c-3)）

○授業評価の在り方検討

- ・教員評価のための授業評価は、教員評価委員会による学生からの聞き取り調査に変更した。
- ・授業アンケートをオンラインとマークシートで実施した。
- ・在校生に教育全体に関するアンケートの実施と、卒業後の追跡調査を実施した。

（I-1-(2)ウa-1)a-2)a-3)）

○ウェブベースの学習支援

- ・学生持込みパソコン向けの構内無線ローカルエリアネットワークの運用を開始した。
- ・オンデマンド方式のe-learning学習支援システムとして、DVD作成および技術展開に必要な基礎知識を学習するための小テスト問題作成に取り組んだ。

（I-1-(4)ウb)）

○国家試験支援

- ・支援体制の強化のためワーキンググループ会議を9回行うとともに、国試委員を選出した。

（I-1-(4)エb-1)b-2)）

○就職支援

- ・就職希望の学生に対し、希望職場ごとのきめ細やかな模擬面接の実施や学生の個別支援を行うとともに、「面接・小論文ガイド」を見直した。

（I-2-(1)アa)b)【2】

（I-2-(2)アc)【2】

○研究の方向

- ・「運動機能向上標準プログラム」（県作成）の効果検証調査を分析報告した。また、姫島村と共同でいきいき姫島体操を開発し、その研究成果の「看護科学研究」への投稿した。
- ・「柚子果皮に由来するNF- κ B/Th2^高亢進抑制剤及びその用途」の特許を取得し、独占的通常実施権を有料で貸与した。

（I-2-(2)アc)【2】

○研究の実施体制

- ・科学研究費について、継続・延長を除き、該当する教員全員が申請を行った。
- ・環境省の「黄砂の健康への影響に関する研究」を受託し外部資金を確保した。

（I-2-(2)イd)）

○研究の質の向上

- ・看護国際フォーラムを開催するとともにNPの看護教育、看護教育制度等の国際会議を開催した。

（I-3-(1)a-1)a-2)）

○地域社会への貢献

- ・認定看護師（訪問看護）コースの講義の構成および臨地実習の準備体制の見直しを実施した。
- ・認定看護師修了生生活動報告会を開催し、卒業生による訪問看護認定看護師研究会を立ち上げた。

（I-3-(2)a)【2】

（I-3-(2)b-1)b-2)【2】

○国際社会への貢献

- ・NP国際学内会議やNPプロジェクト国際会議を開催した。

・ JICAウズベキスタン看護教育プロジェクトのフォローアップとして4名の教員を派遣し、成果評価を行うため看護学校、実習病院等を訪問し調査した。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
教育	50(4)			39	11(4)
研究	13(2)			8	5(2)
社会貢献	13(2)			10	3(2)
合計	76(8)			57	19(8)
ウエイト考慮 後の合計	84			57	27

(注) 1 () は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、76項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価(計画どおり進んでいる)となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価に当たったの意見、指摘等

○教育研究等の質の向上に関する項目について、保健師教育の大学院化の開始や、最初のNP修了生の輩出など、平成23年度は一步踏み出した印象をうけた。

Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

○小項目評価の集計結果では、8項目のすべてがⅢ（順調に実施している）の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
 ○小項目評価の中にⅡ（十分に実施できていない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。
 ○以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

特筆すべき小項目はなし

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施して いない	Ⅱ 十分に実 施できて いない	Ⅲ 順調に実 施してい る	Ⅳ 上回って 実施して いる
運営体制	1			1	
人事の適正化	7			7	
合 計	8			8	

（注）ウエイト付けした項目はない。

※小項目評価の集計結果では、8項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

特になし

Ⅲ 財務内容の改善に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- 小項目評価の集計結果では、5項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
- 下記の「大項目評価に当たり勘案した事項」に示すように、外部資金として文部科学省・学術振興会科学研究費や環境省等の委託研究費等を獲得し、教育研究の充実が図られた。
- 小項目評価の中にⅡ（十分に実施できていない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。
- 以上のことから大項目評価としては、S評価（特筆すべき進行状況にある）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

- ※特筆すべき項目
小項目評価がⅣ（上回って実施している）の項目は、次のとおりであった。
(Ⅲ-2-(1)a)b)
- 外部研究資金の獲得
 - ・文部科学省・学術振興会科学研究費をはじめ20件、合計3,900万円の研究資金を獲得した。
 - ・環境省環境研究総合推進費4,510万円等の委託研究費を獲得した。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施して いない	Ⅱ 十分に実 施できて いない	Ⅲ 順調に実 施してい る	Ⅳ 上回って 実施して いる
事務効率化・ 経費抑制	1			1	
外部資金等の 獲得	3			1	2
資産の適正管 理・有効活用	1			1	
合 計	5			3	2

(注) ウェイト付けした項目はない。

※小項目評価の集計結果では、5項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

- 今年は特に受託事業の受託額が大きく、外部資金の獲得に大学一丸となって取り組んでいることが見受けられる。

IV 教育、研究、社会貢献及び組織運営の状況に関する自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- 小項目評価の集計結果では、8項目のすべてがⅢ（順調に実施している）の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
- 小項目評価の中にⅡ（十分に実施できていない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。
- 以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

特筆すべき小項目はなし

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施して いない	Ⅱ 十分に実 施できて いない	Ⅲ 順調に実 施してい る	Ⅳ 上回って 実施して いる
自己点検・ 自己評価	4			4	
情報公開	4			4	
合 計	8			8	

(注) ウェイト付けした項目はない。

※小項目評価の集計結果では、8項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

特になし

V その他業務運営に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

○小項目評価の集計結果では、9項目のすべてがⅢ（順調に実施している）の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
 ○小項目評価の中にⅡ（十分に実施できていない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。
 ○以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

特筆すべき小項目はなし

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施して いない	Ⅱ 十分に実 施できて いない	Ⅲ 順調に実 施してい る	Ⅳ 上回って 実施して いる
施設・設備の 整備・活用					
安全管理	6			6	
モラル・人権 啓発推進	3			3	
合 計	9			9	

（注）ウエイト付けした項目はない。

※小項目評価の集計結果では、9項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

特になし